

サイエンスカフェ、全国で開催中

■東京以外でも10回開催

専門家や事業者でなくても参加しやすい気軽な雰囲気の中で、リスク評価の考え方や食品のリスクに関わる科学的な知見について意見交換できる場、それが「食品のリスクを考えるサイエンスカフェ」です。食品安全委員会では東京会場でのシリーズ開催に加えて、地方公共団体との共催で、食品安全委員会のリスクコミュニケーション育成講座受講者などの協力も得て、全国で開催しています。東京以外でのサイエンスカフェは平成22年度、合計10カ所で行いました。

■気軽さが好評な意見交換会

サイエンスカフェは食品安全委員会の委員や大学、自治体の専門家による話題提供の後、参加者から出された質問カードをもとに意見交換をする形式で行っています。約1時間半～2時間の時間設定に加え、カードによる質問は手軽でたくさん質問が出しやすいなど、各種の意見交換会の中でもその気軽さが好評となっています。開催は平日の日中となることから、参加できる人は限られます。そこで、サイエンスカフェで使用したスライドに加え、講演および質疑応答



の内容を食品安全委員会のホームページに掲載していますので、ぜひご覧ください。

食品のリスクを考えるサイエンスカフェ 開催実績 (平成22年11月26日～平成23年3月末)

開催日	共催自治体・会場	テーマ
平成22年11月26日(金)	滋賀県・大津合同庁舎	農産物に残留する農薬のリスクはどのくらい?
平成23年1月25日(火)	栃木県・栃木県庁本館	除草剤は危険なのか?安全なのか? 米作りを通して食の安全を考えよう
平成23年2月3日(木)	富山県・富山県民会館	家庭でできる食中毒予防のポイント
平成23年2月10日(木)	山口県・山口県健康づくりセンター	微生物の特性を知って食中毒を予防しよう

熱心な討議、ワークショップ

■全国で合計8回開催

「食品のリスクを考えるワークショップ」は、リスク評価の考え方などについて食品安全委員会から情報提供した後、参加者が5名程度のグループに分かれて話し合い、そこで得た意見や考え方について他の参加者や専門家と話し合う方式で行う意見交換会です。

食品安全委員会のリスクコミュニケーション育成講座受講者などの協力も得て、地方公共団体との共催で全国で開催しています。参加者は食品安全に関心が高い消費者や関連事業者、研究者、教育者などで、平成22年度は全国合

計8カ所で開催しました。

■参加者同士が話し合う意義

ワークショップは、参加者同士が話し合い、論点の整理なども行うことから2時間半～3時間半という長丁場となりますが、どの会場でも熱心な討議が見られます。食中毒をテーマにしたあるワークショップで、参加者の集団給食施設職員の方が現場における食中毒対策の話をしたところ、栄養士の勉強をしている学生さんたちが真剣な表情で聞き取っていたことが印象的でした。「他の



参加者の意見を聞くことができよかった」との感想も多くいただいております。同じテーマでもさまざまな考え方があることに気づいていただける、そんな意義も持ったリスクコミュニケーションとして、今後も進めていきたいと考えています。

食品のリスクを考えるワークショップ 開催実績 (平成22年12月3日～平成23年3月末)

開催日	共催自治体・会場	テーマ
平成22年12月3日(金)	京都府・京都府公館/レセプションホール (厚生労働省と共催)	ノロウイルス食中毒の特徴と対策
平成22年12月15日(水)	青森県・八戸市福祉公民館	安全な食品ってなんだろう?
平成23年1月14日(金)	愛知県豊田市・スカイホール豊田	どう思う?食品添加物
平成23年1月21日(金)	岡山県・きらめきプラザ	知ろう防ごう食中毒
平成23年1月28日(金)	福岡県・福岡県吉塚合同庁舎	お肉の生食と食中毒